

長い付き合い
あなたはイヌ派？それともネコ派？日本列島の遺跡からネコが出土するのは弥生時代後期以後ですが、イヌは縄文時代の早期ないしそれ以前に列島外からもたらされ、縄文人と多様な関わり方をしていました。骨折痕のあるイヌは、狩りのお供をした時にけがをしたのでしょうか。宮城県などからはイヌのお墓が見つかっており、縄文人のお墓からイヌが出土した例も岩手県などで稀にあります。骨や歯を道具の素材にすることは少なかつたようですが、北海道などでは儀礼として骨を焼いたりすることもありました。



縄文をよめなう

道外の縄文の構成資産から ③

縄文時代前期から中期にかけての遺跡で、東北地方有数の規模を誇り、貝塚はほぼ馬蹄型に形成され、竪穴建物や貯蔵穴も配置されています。貝塚からは、ホタテガイ、ハマグリなどの貝殻やマダイ、スズキなどの魚骨、シカやイノシシなどの獣骨、土器や狩猟に使った道具が出土しているほか、この地方では産出されないヒスイや黒曜石など、他の地域との交流・交易を示す遺物が出土しています。

ほかに、人骨や幼犬の骨が出土し、現代と同様に縄文時代においても、ヒトとイヌの関係が深いものであったことを物語っています。

このように縄文時代の自然環境や食生活、社会構造を説くための情報を数多く含む貴重な遺跡であることから、1988年（平成十年）一月に国の史跡に指定されました。

現在は、史跡公園として保存され、復元された二棟の竪穴住居や散策路、見晴らし台などが整備されています。

■問合せ 七戸町教育委員会世界遺産対策室
■電話 〇一七六一五八一五五三〇



道内各地の活動状況

小樽のまちを築いた縄文人

私達の住む小樽は一方を海に、三方を山に囲まれた自然豊かな坂の街です。幕末から明治、昭和初期にかけて栄えた鯨漁、北前船、鉄道と、北海道開拓の重要港としての位置づけで発展しました。現在、小樽には年間800万人近くの観光客が訪れております。

全国には多くの縄文遺跡が点在しておりますが、私達が住む小樽にも、貴重な縄文遺跡が多く残されております。忍路土場遺跡、ストーンサークル、手宮洞窟などの遺跡、土器や石器などの遺物が多く出土しており、縄文時代前期末には小樽最初のまちと言われている「手宮公園下遺跡」が発掘されております。小樽忍路土場遺跡の遺物の一部は小樽総合博物館運河館に展示されております。

小樽縄文人の会は2010年の2月に「縄文」をキーワードに、ロマンあふれる小樽の縄文文化・歴史を市民の皆さん始め、多くの方々に縄文の魅力を広め、再発見しようとして発足しました。現在、会員は大人から子供まで約70名登録しております。

主な活動は、オリジナルの土器、土偶などをグループ別に集まり制作し、余市で行われている「余市縄文野焼きまつり」（今年で20回目開催予定）に参加しています。

小樽在住の原子修先生の発案で「小樽縄文の集い」を毎年開催し、昨年は「おたる縄文祭り」に名称を変え、プログラムも縄文詩劇、講演など内容を充実させ、開催しております。更なる活動の場を拡げ「小樽縄文遺跡めぐり」「縄文茶話会」「縄文研究会」などの企画を実行し、発信したいと考えております。又、小樽、余市を始め、後志地域一体となって縄文文化の交流活動をしたいと考えております。北の縄文道民会議に協力し、『北海道・北東北の縄文遺跡群』の世界遺産登録に向け「小樽縄文人の会」も微力ですが応援したいと考えております。

小樽縄文人の会 会長 前田 隆護

縄文イベント情報

* 詳細は、チラシやホームページ等でお知らせします。



上田忠太郎の「縄文掘」展

入場無料

■主催・問合せ：アートディレクター花田 090-9439-7921

- 日 時：5月3日（水）～8日（月）
- 場 所：新さっぽろギャラリー（札幌市）
- 後 援：北の縄文道民会議、札幌市、札幌市教育委員会、札幌商工会議所
- 内 容：アート展示

北の縄文パネル展 2017 春

入場無料

■主催・問合せ：北海道縄文世界遺産推進室 011-204-5168

- 日 時：5月22日（月）～24日（水）
- 場 所：北海道庁本庁舎1階 道民ホール（札幌市）
- 内 容：世界遺産登録推進事業の紹介（パネル展示）、プロモーション映像上映 など

5月22日（月）は、考古学の専門家によるランチタイムセミナーを開催！！

縄文夏まつり

入場無料

■主催・問合せ：北海道縄文世界遺産推進室 011-204-5168

- 日 時：7月6日（木）～9日（日）
- 場 所：札幌駅前地下歩行空間（札幌市）
- 共 催：北の縄文道民会議、北海道縄文のまち連絡会、札幌国際大学縄文世界遺産研究室
- 内 容：縄文土器などの出土品展示、北の縄文パネル展、北の縄文セミナー など

縄文トピックス

北海道庁が北海道の魅力発信と漫画家の育成支援を目的として実施したまんがコンテスト「北のまんが大賞」において、縄文文化を題材とした『北の縄文』が準大賞に選ばれました！

函館市在住の村瀬修さんの作品で、表紙には「中空土偶」が精巧に描かれています。

選考員からも素朴で丁寧な描写と暖かみのある作風で高い評価を得られたとのこと。道のホームページでもご覧いただけますので、ぜひ一読ください！

<http://www.akarenga-h.jp/ca-manga/publication-01/>



北の縄文



準大賞